

手話による教育、聴覚障害者と聴者の共存をめざす

第29回

ろう・難聴教育研究大会のご案内

2006年7月29日(土)～7月30日(日)

大会テーマ：手話を基盤とするろう教育PART 4

—手話と日本語— 2言語習得の理念と実践—

主催 ろう・難聴教育研究会 (旧TC研)

かつて「口話一辺倒のろう教育」は日本語習得の妨げになるとして、手話を抑制ないし排除してきました。しかし、今日では、手話も日本語も、聴覚障害者にとってともに不可欠の言語であることが、ようやくろう・難聴教育関係者の間で、共通認識になりつつあります。

さらに、この二つの言語が聴覚障害児にとってどのような意味を持つかを考えたとき、手話は、ろう・難聴児集団にとって共通のコミュニケーション手段であり、かつ、健全な障害認識の契機でもあります。さらに、ろう・難聴児にとっては自然獲得可能な言語であり、日本語の習得・習熟にとっても、認知的言語的基盤を提供するものと考えられます。それゆえ、全人的な発達を目指すろう・難聴教育では、手話言語をどのようにとらえ、教育の全ての場面・過程でどのように手話言語を用いるかは、今日のろう・難聴教育にとって、最大の課題の一つと言えましょう。

他方において、ろう・難聴児のしっかりした育児教育環境の整備を抜きにした新生児聴覚スクリーニングと幼児の人工内耳装用が、医療ペースで強行されており、聴覚障害児の早期支援体制の整備が急務となっています。

こうしたことから、早期からの手話と日本語の習得、両立を目指す教育体制の確立が、ますます重要となっております。そのためには、「手話を基盤とするろう教育」の姿をもっと見えるようにしなければなりません。日本のろう・難聴教育は、聴覚口話の言語指導については、長年の蓄積をもっています。今わたしたちに必要なのは、ろう・難聴児教育の現場が、手話言語についての理解を深め、教育実践に耐える手話実技能力を獲得することです。

今回の研究大会では、上記のような観点から「手話と日本語—2言語習得の理念と実践」をサブテーマとし、「手話を基盤とするろう教育」のあり方を見つめることにしました。

そのために用意した各プログラムのねらいについて趣旨説明をご覧ください。今大会で、現場が求めるタイムリーで重要な情報が得られるものと確信しています。ろう・難聴教育にかかわる保護者、教員、研究者、福祉・医療関係者、成人ろう・難聴者、手話関係者、さまざまな立場の方々の参加をお待ちしています。

ろう・難聴教育研究会会長 伊藤政雄

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 名称 | 第29回ろう・難聴教育研究大会 |
| 2 | テーマ | 「手話を基盤とするろう教育PART 4」
—手話と日本語— 2言語習得の理念と実践— |
| 3 | 主催 | ろう・難聴教育研究会 (旧トータルコミュニケーション研究会) |
| 4 | 期日 | 2006年7月29日(土) 9時20分～
7月30日(日) ～17時00分終了 |
| 5 | 会場 | 小松川区民施設 (小松川さくらホール)
〒132-0034 江戸川区小松川3-6-3 TEL 03-3683-7761 |

第29回 ろう・難聴教育研究大会実施要項

- 1 名称 第29回ろう・難聴教育研究大会
- 2 テーマ 「手話を基盤とするろう教育PART4」
—手話と日本語— 2言語習得の理念と実践—
- 3 主催 ろう・難聴教育研究会（旧トータルコミュニケーション研究会）
- 4 期日 2006年7月29日（土） 9時20分～受付
10時00分開始～17時30分終了
18時00分～20時30分（交流会）
7月30日（日） 9時00分～受付
9時30分開始～17時00分終了
- 5 会場 小松川区民施設（小松川さくらホール）
〒132-0034 江戸川区小松川3-6-3 TEL 03-3683-7761 FAX 03-3683-7764
- 6 交通 **12の会場案内をご覧ください。**
- 7 参加費

		2日間参加	1日のみ参加	交流会参加	昼食代
会員	一般	4000円	3000円	2500円	1000円
	学生	3000円	2000円	2500円	1000円
非会員	一般	6000円	4000円	2500円	1000円
	学生	4500円	3000円	2500円	1000円

(*会場付近には昼食をとったり買ったりするお店がありません。)

8 申込方法

- (1) 下記の郵便振替口座に送金した上で、所定の申し込み票に記入し、メールまたはFAXして下さい。

* 所定の申し込み票は下記の当研究会ホームページからコピーできます。

www.deaf.or.jp/tc

* 下記宛FAXで請求することもできます。

FAX 048-987-1369 長谷川純子

* 送金と申し込み票を確認し、参加票(はがき)をお送りします。

参加当日、受付に参加票を提示して下さい。

なお、郵便振替での申し込みは7月20日に締切ります。

当日も参加を受付ますが、申し込みは受付の混乱を避けるため、郵便振替でお願いします。

- (2) 参加費の送金先

口座番号 00110-2-314972

加入者名：ろう・難聴教育研究会（旧TC研）

- (3) メールでの申し込み先 naoh@green.ocn.ne.jp 長谷川純子

- (4) FAXでの申し込み先 048-987-1369 長谷川純子

- (5) 研究会会員への加入のお誘い

年3～4回の会報、大会・小研究会の割引参加などの特典があります。

加入方法は、大会参加費（会員分）と一緒に「会費4000円」を払込んで下さい。

- 9 問合せ先 TEL 090-6035-4686 矢沢国光
FAX 03-3884-9582 メール tcymaeda@hotmail.com 前田芳弘
- 10 情報保障 手話通訳、パソコン字幕表示があります。

11 プログラム

7月29日（土）（3F多目的ホール）	
9:20	受付
10:00	挨拶
10:10	<p>「北欧ろう教育のこの頃—学生研修旅行の報告を兼ねて—」</p> <p style="text-align: center;">新井孝昭（筑波技術大学） 長谷川洋（元筑波技術短期大学）</p> <p>ここ数年続けて、ろう・難聴学生を対象にした北欧・欧州への交流・研修旅行を実施してきた。その中で、言語としての手話の位置づけが社会的合意となっていることを実感する一方、バイリンガル（ろう）教育の発祥国（デンマーク）などでの人工内耳装着児の急増とその波紋も知ることになった。この研修旅行を通して見てきた北欧諸国の状況を、学生研修旅行の様子を紹介しながら報告し、今後の私たちの関わりも考えたい。</p>
12:00	昼食
13:00 (講演)	<p>「手話と日本語、2言語を求めろろう教育—バイリンガル研究から考える」</p> <p style="text-align: center;">井上智義（同志社大学社会学部教育文化学科教授）</p> <p>聴覚障害教育ではかつてない日本語と手話肯定の2言語状況が生まれています。しかし、どのように教育を進めていくか明確な基本方針がなく目指すべき姿が見えない混沌状態にあるようにも見えます。現状をしっかり理解し、バイリンガルが何なのか、2つの言語そのものがどう違い、言語処理の仕方はどうなっているのか、互いの影響はどうか、バイリンガルにはどのようなアプローチがあるのか、その特徴は、利点は？、その根拠は？、教科学習を進める際の2言語の位置づけは？、2言語の発達とHAや人工内耳による聴覚活用への期待との折り合いは？、多様な特性を持つ子ども達の言語発達と全体の円滑なコミュニケーションの両立をどう目指せばいいのかという課題など、現場の合意形成に明確な情報が求められています。バイリンガル研究に基づく知見をお話いただき、現状の理解とともに変革の糸口をつかみます。</p>
15:00 (質疑応答)	
15:30 (休憩10分)	
15:40	<p>「早期教育最前線」</p> <p style="text-align: right;">南村洋子（大塚ろう学校）</p> <p>新生児聴覚スクリーニングが始まり、リファ（要再検査）や確定診断の早期化により、ろう学校の乳幼児相談のあり方も変化が求められるようになりました。大塚ろう学校がボランティアの協力などで実施している家庭訪問支援は新しいニーズに応じた取り組みです。今求められている早期支援のあり方について紹介してもらいながら学びます。</p>
17:20	連絡、終了
18:00	交流会（さくらホール内の2F集会室1で行います。）
7月30日（日）（3F多目的ホール）	
9:00	受付
9:30	<p>「わが家のコミュニケーションと子育て</p> <p style="text-align: center;">——娘の言語発達（手話・日本語）を振り返って——</p> <p style="text-align: center;">那須 善子（二人の聴覚障害児の親、聴覚障害者）</p> <p>那須英彰・善子夫妻には、二人の聴覚障害児がおりますが、長女は、すでに小5。手話と日本語を駆使するとても活発なお子さんです。那須家の子育てと長女の成長過程を、コミュニケーション・言語に焦点を当てて報告してもらいます。</p>
11:30	<p>昼食</p> <p>ろう・難聴教育研究会研総会（非会員の方が同席してかまいません。）</p>
13:00 ~14:10 (休憩10分)	<p>実践報告</p> <p>①「子どもの意欲を大切にしたい指導とは—小低学年における実践」 荒川早月（元大塚ろう学校）</p> <p>②「豊かなコミュニケーションを土台にした日本語獲得の試み」 熊谷アツミ（平塚ろう学校）</p> <p>③「幼児期に大切にしたい生活と遊び」 城律子（坂戸ろう学校）</p> <p style="text-align: center;">「手話導入から5年目にして思うこと」 須貝亮英（坂戸ろう学校）</p> <p>手話をベースとする聴覚障害教育を行うとき幼小の指導上の基本方針の共通理解が重要です。幼稚園での言語発達を踏まえ小学部で継続性のある言語や教科の指導がなされれば指導効果の高まりが期待できます。3校の実践から学びます。</p>
14:20 ~15:30 (休憩10分)	
15:40 ~16:50	
16:50	挨拶
17:00	終了

講師紹介

井上智義（同志社大）

京都生まれ。大阪教育大学聴覚言語障害児教育教室助手を経て、現在、同志社大学社会学部教育文化学科教授。バイリンガリズムの問題の研究を行っている。ろう学校やギャロデット大学の参観などもし、聴覚障害教育への理解が深い。著書には「異文化との出会い！子どもの発達と心理：国際理解教育の視点から」（編著）ブレーン出版（2002）、「福祉の心理学 人間としての幸せの実現」サイエンス社（2004）、「ろう者の言語と記憶に関する認知心理学的研究」（梅本堯夫監修・川口潤編『現代の認知研究』第8章執筆）培風館（1999）、他

当研究会ホームページをご覧ください。

www.deaf.or.jp/tc

12 会場案内

交通 ① JR総武線 平井駅下車（徒歩15分） タクシーあり

*東京・上野駅からの行き方（徒歩を含む所要時間45分）

（東京・上野駅→山手線→秋葉原駅乗換→総武線平井駅）

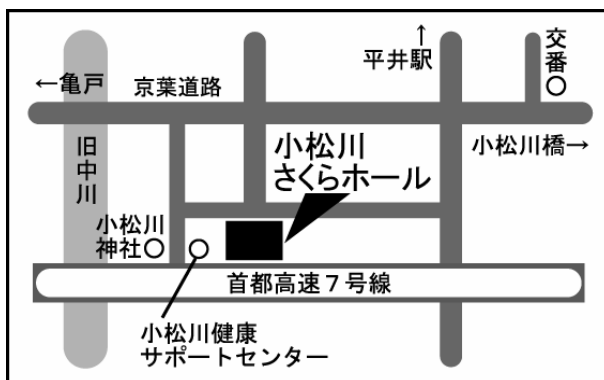
平井駅から東大島駅行きバス乗車、小松川健康サポートセンター下車すぐ前

②都営地下鉄新宿線 東大島駅下車（小松川口出口から徒歩12分）タクシーなし

東京・上野駅からの行き方（徒歩を含む所要時間45分）

（東京・上野駅→山手線→秋葉原駅乗換→徒歩→都営新宿線岩本町駅→東大島駅）

東大島駅から平井駅行きバス乗車、小松川健康サポートセンター下車すぐ前



(小松川さくらホール)

2006年7月29日～7月30日

第29回ろう・難聴教育研究大会 参加申込書

※は必ず記入して下さい。(その他は任意)。FAXかTELのいずれか記入して下さい。

※ふりがな		性別	会員区分		コミュニケーションスタイル
※氏名		男女	※会員 非会員	※会員番号	・ろう・難聴・聴
※住所	〒				
※FAX		※TEL			
※E-Mail	(メールマガジンをお送りします。未登録の方は記入して下さい。)				
所属団体	※ご自身の立場を○で囲んで下さい。 1. 学校関係者 2. 親 3. 手話関係者 4. 学生 5. その他				

(★会員番号は会報帯封の名前の下に印刷してある5桁の番号です)

項 目		金 額	* ○ 印
会 員	一 般	2日間参加	4000円
		1日間参加	3000円
	学 生	2日間参加	3000円
		1日間参加	2000円
非 会 員	一 般	2日間参加	6000円
		1日間参加	4000円
	学 生	2日間参加	4500円
		1日間参加	3000円
交流会参加費		2500円	
昼 食 代	7月29日	1000円	
	7月30日	1000円	
合 計 (A)		*	

会費 (年4000円) を	年分 (B)	円を振込みます。
---------------	--------	----------

振込み額合計 (A) + (B) = 円

振込み日 2006年 月 日